

北の都は

(昭和四十九年寮歌)

大森秀治君 作歌・作曲

一

北の都は開発かれて
喪失われゆく大自然
寮の姿も変われども
恵迪の名は永遠に

二

残雪溶けて東風吹かば
大地は黒々と輝けど
川流絶えて水は涸れ
湿原に咲く花影なし

三

緑葉さわぐ楡の森
昔日の影すでになく
短き盛夏の夕陽を浴びて
ただ寥々と佇立まう

四

虚空逍遙う月の影
蒼白く映ゆ原始森の木々
秋風にうたれて舞う落葉
早雪までのこの眺望

五

白雪烈風に舞い上がり
疎々たる杜を吹き抜けぬ
樹影に黒き鴉鳥
寂莫として声もなし

六

警醒の鐘鳴らせども
迷夢の夜は未だ明けず
行方も知れぬ朔風に
心の痛みつのるかな

七

北に旅してこの宿に
仮寝の夢を食りて
過ぎし歳月早二年
懐かしさ満つこの団居